

住民主体で観光振興

吉野川市
美郷地区

旅館や農家が推進組織

5月発足 「体験型」売り出す

吉野川市美郷地区の住民が、体験型観光を進める組織「美郷ツーリズム協議会」を5月に発足させる。これまで美郷商工会を中心に進めてきた観光振興の取り組みを住民主体で展開し、地域に根ざした「持続可能な観光地」づくりを目指す。

協議会は、農家民宿や旅館の経営者、梅農家、女性グループなど地域住民約10人で構成する。発足から2年間は美郷商工会に事務局を置き、会員を増やしながら組織体制を整える。

会員間のネットワークを構築して観光客の受け入れ窓口を一元化するほ

か、体験プログラムの企画・提供、ブログやメルマガジンによる情報発信などに取り組み、地域を一体的に売り出す。

これまで美郷地区の観光振興は商工会が主導してきたが、住民が主体となることで活動を地域に広げ、会員一人一人のもてなしの意識向上につな

げる。

商工会の高木義夫経営



指導員は「多くの人に協力してもらい、無理なく長続きする体制を築いていきたい」と話している。

協議会発足に向けて意見を交わす関係者
＝吉野川市美郷の市ふるさとセンター